

第 1 ・ 2 学年 国語科

1 学年の目標

- (1) 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 内容

知 識 及 び 技 能	<p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項</p> <p>ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。</p> <p>イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。</p> <p>ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ「」の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。</p> <p>エ 第 1 学年においては、学年別漢字配当表の第 1 学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第 2 学年においては、学年別漢字配当表の第 2 学年までに配当されている漢字を読むこと。また、第 1 学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第 2 学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。</p> <p>オ 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。</p> <p>カ 文の中における主語と述語の関係に気付くこと。</p> <p>キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。</p> <p>ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。</p>
	<p>(2) 情報の扱い方に関する事項</p> <p>ア 共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解すること。</p>
	<p>(3) 我が国の言語文化に関する事項</p> <p>ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。</p> <p>イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。</p> <p>ウ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。</p>

思考力、判断力、表現力等	A 話す・聞く	<p>ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。</p> <p>イ 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を決めること。</p> <p>ウ 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。</p> <p>エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと。</p> <p>オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。</p>
	B 書くこと	<p>ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。</p> <p>ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。</p> <p>エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。</p> <p>オ 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。</p>
	C 読むこと	<p>ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えること。</p> <p>イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。</p> <p>ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。</p> <p>エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。</p> <p>オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。</p> <p>カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。</p>

3 内容の取り扱い

(1) 知識及び技能

① 言葉の特徴や使い方に関する事項

- 語彙を豊かにするために、身近なことを表す語句の量を増やすとともに、意味による語句のまとまりがあることに気付かせる。
- 文章を読んだり表現したりするとき、主語と述語との関係に気付くことができるようにする。
- 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れさせる。以前は「話すこと・聞くこと」に「敬体と常体との違い」として示されていたが、今回の改訂で「言葉遣い」に関する「知識及び技能」として整理し、敬語と併せて示されている。
- 音読や朗読に関する指導については、「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」だけでなく、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」の指導事項や「知識及び技能」の他の指導事項とも適切に関連付けて指導することが重要であるため、今回の改定では、「知識及び技能」として整理し、示している。

② 情報の扱い方に関する事項

- 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する「知識及び技能」の育成に向けて、今回の改定で新設された事項である。
- 第1,2学年では、事柄同士の共通点や相違点を見付けることや、事柄の順序を考えることが、理解したり表現したりする上で大切であることを理解することが重要である。

③ 我が国の言語文化に関する事項

- 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くことで、伝統的な言語文化に触れ、楽しさを実感できるようにする。

- いろはうたやかぞえうた，しりとりやなぞなぞ，回文や折句，早口言葉，かるたなどの言葉遊びに触れる中で，言葉の豊かさに気付かせる。
- 日常的に読書に親しませるために，新しい知識を獲得したり物語の世界を疑似的に体験したりできる読書の楽しさや面白さを感じさせることが大切である。
- 身の回りには，物語，昔話，絵本，科学的な読み物，図鑑などのいろいろな本があることを知らせ，読書に興味をもたせる。

(2) 思考力，判断力，表現力等

① A 話すこと・聞くこと

- 話題として決めた身近なことや経験したことなどに関連する事柄を具体的に思い出し，伝え合うために必要かどうかを判断して選ばせる。
- 話の相手としては，教師や友達，幼稚園児や保育園児など身近な人々が考えられる。人数についても，ペアから小グループ，学級全体へと広げていく。
- 大事なところは特に大きな声でゆっくり話すなど，自分が話す内容や何を伝えたいのかを意識した上で声の大きさや速さを工夫させる。また，聞き手に届く音量，音声が明確に聞こえる速さで話すことにも留意させる。
- 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを聞き落とさないために，事柄の順序を意識しながら聞くことと，集中して聞き取ることを指導する。
- 話し合いでは，互いの話に関心をもって聞き，相手の発言に関連した質問や復唱，共感，感想を述べることで話をつなぐようにさせ，話がつながる楽しさやよさを実感できるようにする。
- 「話すこと・聞くこと」の指導内容は，次のような言語活動を通して指導する。

ア 紹介や説明，報告など伝えたいことを話したり，それらを聞いて声に出して確かめたり感想を述べたりする活動。

イ 尋ねたり応答したりするなどして，少人数で話し合う活動。

② B 書くこと

- 各教科等の学習や児童の日常生活での経験などに関連させ，児童一人一人にとって書くことのよさを実感できるようなものとなるよう留意する。
- 伝えたいことを明確にするために，書くために必要な事柄を思い出したり想像したりして，ノートやカードに書き出すとともに，書き出した事柄を見て，書こうとする題材に必要な事柄かどうかを確かめさせる。
- 構成を考えることによって自分の考えを明確にしていくことを重視し，「始め—中—終わり」などの文章構成も意識させる。
- 前後の語句や文のつながりを大切にし，一文の意味が明確になるように語と語との続き方を考えるとともに，離れたところにある語と語や文と文とのつながりについても考えて記述させる。
- 間違いに気付いて正すことでよりよく伝わる文章になることを実感させるために，文章を読み返す習慣を身に付けさせる。
- 書いた文章を互いに読み，順序の分かりやすさ，語と語や文と文との続き方などを観点として感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができるようにする。
- 「書くこと」の指導内容は，次のような言語活動を通して指導する。

ア 身近なことや経験したことを報告したり，観察したことを記録したりするなど，見聞きしたことを書く活動。

イ 日記や手紙を書くなど，思ったことや伝えたいことを書く活動。

ウ 簡単な物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。

③ C 読むこと

- 説明的な文章の読み取りでは，時間の順序，事柄の順序に加え，文章表現上の順序にも留意させる。
- 文学的な文章では，場面の様子や登場人物の行動，会話などを手掛かりとしながら，物語の登場人物や主な出来事，結末などを大づかみに捉えさせる。

- 説明的な文章の読み取りでは、書き手が述べている事柄を正確に捉えるために、時間や事柄の順序に関わって文章の中で重要になる語や文、読み手として必要な情報を適切に見付ける上で重要になる語や文を文章の中から見付けさせる。
- 文学的な文章の読み取りでは、物語の展開に即して各場面の様子に変化したり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握させた上で、その様子を豊かに想像しながら読ませる。
- 文章の内容を自分の知識や実際の経験と結び付けて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりして、感想をもたせる。
- 文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することを通して、「おもしろいな」と感じたり「なるほど」と気付いたりしたことを共有し合うようにする。
- 「読むこと」の指導内容は、次のような言語活動を通して指導する。

ア	事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動。
イ	読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
ウ	学校図書館などを利用し、図鑑や科学的なことについて書いた本などを読み、分かったことなどを説明する活動。

4 評価の観点の趣旨

観 点	観 点 の 趣 旨
知識・技能	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもっている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えをもったりしながら、言葉がもつよさを感じようとしているとともに、楽しんで読書をし、言葉をよりよく使おうとしている。